

平成2年3月8日

西

風

創刊号

西 風



題字：初代教頭 久保 穎先生



校訓

自立・連帶・創造

〈校章の由来〉

高松西高の西 (W E S T) の頭文字である “W” 3つを重ねて、力強くはばたく翼によって、西高の輝かしい未来への飛翔を象徴したものである。

また3つの “W” は、生徒・教師・父母三者の堅い結束のもとに

“Wisdom through Work and Will”
(強い意志とたゆまぬ勉学を通して英知を磨く) という校風樹立の誓いをあらわしたものである。校章デザイン 土岐 孝氏
(昭和51年11・1 制定)

校歌

一、学舎に 風は流れて
常盤なる 松の緑よ
たくましき生命はぐくむ
若人の 願い切なり
ああ西高
自立の鐘をつよく鳴らせ

二、清らかに 陽光さしいで
仰ぎ見る 青垣山よ
悔いのなき今日を生きんと
若人の 声はこだます
ああ西高
連帯の輪を かたく結べ

三、大いなる 希望の丘に
そびえたつ われらが母校
新しき時代を拓く
若人の 瞳澄みたり
ああ西高
創造の火を 明かく燃やせ

会報「西風」創刊にあたつて



西風会会長

上 村 幸 司

(三二期)

平成も二年目に入り、二十一世紀まであと十年となりました。西風会会員の皆様をはじめ、当会にお力添え下さっている方々におかれましては益々ご健勝の事と存じます。

お蔭様で本年三月、当会も十周年を迎える事ができ、又会員数も一期生の加入で約五千名となりました。創刊号はこの記念すべき年に発行するべく、二度の準備号を経てようやく実現できました。会員の皆様はもとより寄稿下さった山口校長先生、旧職員の方々に厚くお礼申し上げます。作成委員会の皆様も大変お疲れ様でした。

十年と云えば、丁度義務教育を終え、進学・就職と人生最初の選択をする年です。私達は高松西高を選択いたしました。西風会が存続・発展する為にはこの十年の意味を良く噛みしめ、現状を正確に把握し初心に戻り更に十年後を想定した活動方針を実行する事だと思います。具体的には次の案件をすぐにでも改善すべき現状です。

一、総会について 毎年八月に開催しておりますが、会員数五千名に対し出席者が百名未満です。総会内容等もっと充実させるところまできていると思います。

二、会員名簿について 異動通知（住所・進路等）が無い為に正

確な名簿が作成できず、ひいては宛先不明で返送されてくる郵便物が少なくありません。西風会も承った通知で名簿を正確に訂正するよう心掛けますので、西高内・西風会係までその都度ご連絡をお願いします。

三、会計について 運営は会員皆様の入会金と今会計年度より実施させて頂いた年会費によってまかなわれています。一層のご協力をお願いします。

四、支部活動について 香川、高松市役所（新西会）、東京、京都、岡山で社会人中心の支部もあれば学生で何とか支えてもらっている支部もあります。支部入会方法等今後本部からのアシストがもつと必要だと思います。

五、運営メンバーについて 運営は各期・各クラス一～三名のクラブ代議員中心で行なわれるものですが、進路先の違い、都合のとれる時間帯の違いなどから実際には各期わずか数名の有志で切り盛りしている現状です。この件に関しては役員選出方法に遡ると同時に、代議員以外の皆様のお力添えを頂ければ幸いです。

以上が現状です。良いアイデアがあれば是非とも頂きたいと存じます。最後に、皆様の今後のご活躍と高松西高の更なる発展をお祈り申し上げ、この度の創刊の挨拶に代えさせて頂きます。

創刊に寄せて

校長 山口 審太

西風会誌の創刊を心からお慶び申し上げます。一昨年からのご計画がここに実を結ぶこととなり、会員皆様のおよろこびも一沙と拝察致します。現在西高の現役であります私達にとりましても会誌が定期的に発行されることは、西風会の歩みが力強い形となって表われて来たものと心強く存じます。

皆さんの母校も十四回生を迎えるまでに年を重ねてまいりました。学級数も最高規模の三十二学級となります。教師陣に一期の清水浩行さんが体育科で野球部監督、二期の植谷昌晃さんが数学科で吹奏楽部顧問、五期の土居真也さんが体育で剣道部顧問、多田佳弘さんが社会科で野球部副部長として四名の方が後輩の指導に当つておられます。

最近の西高生気質は先輩諸兄姉の時と大差はないと思いますが、諸先輩が残して下さった実績の上にあぐらをかいてしまっている嫌いがあります。西高に入学できれば先輩のように大学へ行けると思ってているのでしょうか。空想的大学進学希望者群とでも言うべきでしょうか。部活動は単にその順位のみに意味があるものではありませんが、上位でありたいとの思いばかりが先走ります。コーラス部や吹奏楽部はOBの皆さんのが発表会に参加させていただくという幸運な部ですが、他の部ではそんな状況には至っていないですね。

西高の今昔を想いますとき、やはりあの西サン、西村信重先生の黒ぶち眼鏡の中の笑顔が浮んできます。いまも校庭のどこかで出会う気がし

ます。

一期・二期の皆さんがカブセル開きをされました。その時の想いの中にはきっと西サンとの再会があつたことでしょう。

西風会の総会が母校で行われる機会があれば、想い出探しをしてみて下さい。まだまだ随所に諸兄姉の高校時代の顔が残っていることでしょう。

西風会誌の創刊が、西風会員を核とする西高関係者の心の絆となります。



(写真中央：故西村信重先生)

確固たる西風会へ バンザイ

高松西高PTA

太田 賢

高松西高同窓会の皆さん、大学・実社会の中で、幅広くご活躍されていることに深く感謝を申しあげます。また、この度「西風会会報創刊号発行」まことにおめでとうございます。

高松西高が創立してわずか十三年目ですが、同窓会皆さんの英知と結束が見事に稔り、早くも社会的にしっかりと組織づくりが築かれていることは、大いに喜ばしい限りです。献心的・力強くご指導をいただいた諸先生方の素晴らしいお教示をしつかりと受け止め前進していく同窓会皆さん之力であります。まもなく、今年度も四百余名の後輩が加わりますので、格段のご指導と益々の組織強化発展をお願い申しあげます。

私たち高松西高PTAも、皆さんのつくられた素晴らしい伝統を受け継ぎ地域社会の中での羽搏ける学校環境づくりのお手伝いに頑張っています。昨年度から、より多くのコミュニケーションを図り、組織の活性化をめざして①広報委員会(会報「やまもも」の発行。三月に第六号が出来ます。やまももの名前は、校門付近から武道館に向って列植され、校内の主要庭園木になっているところから採用しました)②保健委員会(PTA運営の食堂・購買事業がより寄与できるために、他校食堂の見学や研究会を重ねて質的向上に努めています。また西高祭に特別参加をして子弟の活動により理解と信頼を深めました。さらに献血運動にも輪をひろげていきます)③研修委員会(校外における各種研修大会に参加した

り、学級PTA・学年団PTA・地区懇談会などを開いて、子弟の健全育成・情報交換はもちろん、会員自らの自己啓発の場としています)、この三委員会を中心に少しでもよりよい環境づくりを考えております。

「一人は万人のために、万人は一人のために」ということばがありますが、組織の中の一人一人が育ててくれた母校を核として、確固たる同窓会に発展させていくことは、来るべき二十一世紀の中で、高松西高同窓会「西風会」が広く各界に貢献し、なくてはならない存在となるでしょう。

西風会皆さんの一層のご健勝をお祈り申しあげます。



薰

風

～恩師からのたより～

西高創設について

初代校長

井澤滋

高校新設について検討が始められたのは、昭和四十八年からであるが、正式に公表されたのは翌年の十月のことであった。本県で高校が新設されることは昭和三十七年以来のことであり、それだけに県民の期待と関心は大きいものがあったようである。県教育委員会は県内各界からの意見をふまえ、高校新設の準備を進めたのであるが、そのなかで最も重要な問題はどのような性格の高校をつくるべきかということであった。

当時、高校教育がかかえる諸問題との関連で、高校新設を機に現行の入試制度を変えるべきとの議論もあったが、種々論議のすえ、現行の制度を変えずに高松地区の大規模校を解消し、受験生が特定校に集中することにより生ずる受験競争の過熱を緩和するために特色ある学校を設立する、ということが県教委の方針として決定された。

五十年開設の新設高校開設準備室は、この方針にもとづき特色ある学校づくりの内部的準備をすすめると共に、中学校の先生や父兄にたいし、理解を得るために努力をつづけたが、未知数の学校にたいする中学校側の不安を解消するのは容易なことではなく、学校をつくることの困

難さを痛感させられたものである。しかし恵まれた環境の地での校舎建築の進捗、教員組織の一部発表、入学定員の早期発表などの県教委の措置や、報道機関を通しての学校紹介などにより、中学校側の理解も深まり、入学願書受付時には我々が期待した新設校を作るにふさわしい生徒の出願を確保し、五十二年四月の開校を迎ることが出来た。

入学式当日、新入生諸君が地元の人達によって作られた歓迎アーチをくぐって西高線のバスで到着するのを二階の職員室から眺めて、私達は西高創設のために寄せられた各方面の人々の御協力に深く感謝すると共に、その人たちの御期待にそう学校づくりを進める決意を新たにしたものである。

高松西高も創設以来すでに十四年、学業にスポーツに県内の高校の中で確固たる地位を占め、三千を超える卒業生諸君は県内外でそれぞれ立派に活躍して居られることは、私にとつても此の上もない喜びであり、今後の一層の発展を切に期待するものである。



西高開設準備室の方々

久留島さん

菅原さん
塩井先生

久保初代教頭先生

井澤初代校長先生

谷本事務部長

西村先生



特集／初代生徒会会長・同窓会会長より／

第一回生徒会の思い出



初代生徒会会长

山地
英二

(二期)

西風会会報第一号の発行おめでとうございます。卒業生の皆さんそれが、西高時代の思い出を胸に、各方面で御活躍のことと思います。今思ひ返してみると、西高にとっての最初の生徒会役員選挙は、たいへん活気に満ちていました。それは立候補者全員がクラスの推薦ではなく、自分自身の意思によって立候補したからでしょう。最近の高校では、生徒会役員の人数を揃えるのに苦労すると聞きます。でも自分からやるうとする気があったから、苦労はあったけど充実した毎日でした。

生徒会が発足してからの仕事は、生徒会規約の作成、校歌、応援歌の作成、記念植樹、カブセルの埋設、開校記念式、文化祭、体育祭の準備、運動部、文化部の予算編成、同好会の設立等たくさんありましたが、どれをとっても前例がなく、他校の文化祭を見学に行ったり、県外の高校の生徒会報を取り寄せたり、今となってはなつかしい思い出です。第一回役員の多田雄治・鷲村太伸・小柳雅俊・細谷和代・吉田誠の各氏の活

躍なくしては、何一つできなかつたでしょ。また、暴走がちな私達を指導して下さった大貫先生の苦労もたいへんだったと思います。

入学式の写真の背景は、ブルドーザーやダンプが並び、工事后すぐは飲料水もままならず遠足気分で毎日弁当と水筒持参で通学したものです。運動場もでこぼこ、視聴覚教室をふたつに仕切つて7・8組の教室に使

い、音楽室、美術室も会議室を利用しているという状態でした。

けれども私は、西高へ行って良かった、すばらしい仲間、先生、地元の人々と出会えて本当に良かったと思っています。二十代も後半を迎えた今この空の下でみんなが頑張っていると思うと、私自身、身のひきしまる思いです。もし今の暮らしに疲れた時は、一度山口一号線を登つてみて下さい。あの頃の自分を思い出すでしょ。西村先生の声が聞えるかもしれません。あなたが毎朝水をかけた樹木が、りっぱに大きくなっています。あなたにとって西高は永遠に母校なのです。

最後になりましたが、上村幸司会長をはじめとする、西風会役員の方々の御努力に感謝し、西風会会報の発展を心からお祈りします。



(初代生徒会役員)

「西高と応援団と私」

初代同窓会会長

氏家俊雄

(一期)

西高を卒業して、何年も経つ。東京で生活をしているが、西風会東京支部の集まりで、西高卒業生と会う機会がある。昔話に花が咲き、西高を思い出し、高校生活を思い出す。何年経っても、西高への愛着は変わらないと、改めて思つたりする。

私の思い出す西高の風景は、グランドは整備されていない。プール・武道場もない。その上、校舎も今の三分の一程度しか、できあがってない。黒板の裏は、工事中であったために、うるさくて授業が中断されることもあった。そんな「未完成」な西高を思い出す。

「未完成」の上に、「何もない」学校であった。しかし、「何かをしてやろう」という気持ちは、生徒一人一人の中にあったと思う。

私自身の西高生活の思い出は、応援団とその仲間にある。「何もなかつた」ゆえ、応援団も当然無かった。応援団を作る為に、高松高校に練習に行き、指導してもらった。また、他校の応援風景を見たりした。試行錯誤した後、西高独自の応援のスタイルを形成した。そうこうするうちに、太鼓が欲しい、応援旗が欲しいという気持ちになつた。学校の許可是早かつた。特に、故西村先生の御尽力があつたと思つて。応援団を色々な面で、バックアップして頂いた。惜しむらくは、今の高校生にも、バックアップをして欲しかつた。

自分達で考えた応援をすることができた。学校は、それを優しく見守つ

てくれた。そんな雰囲気が、学校にあった。自由であったと思う。

応援は、野球部が中心である。その野球部が、春の選抜に出場した。応援団OBの多くが歓喜した。我々の時代は、一勝が目標であった。甲子園の壁は厚く、遠かつた。甲子園で応援することなど考えてもいなかつた。しかし、我々の後輩には、その場が与えられた。後輩達に、OBは援助し、指導した。それは、後輩の為だけでなく、また昔のように、西高を応援したかったからだと思った。また、そうすることによって、OB達は、西高がまたひとつ「完成」の域に達したことを感じたと思う。

「未完成」であった西高も懐かしい。設備の整つた今の西高も、私にとって大切な母校である。西高を卒業して、私に西高が与えてくれたものは、母校愛かもしれない。今もなお、私は、「がんばれ西高」である。



(前列右から 2 人目筆者)

ももたろうだより

近況報告

西高教員となつて

多田

佳弘
(五期)

え方を助長しているのではないだろうか。

私は母校西高の教員として、生徒の思考力を伸ばしていきたいと思っている。生徒が自ら考え、それを自主的に行動に移すことで西高のモットーである文武両道に近づくことができると思う。そのために西高OBの三人の先生方と協力し、様々な問題に前向きに取り組んでいきたいと思う。

卒業生の皆さん、あなたが三年間過ごし集立つていった西高は今どうなっているでしょうか。これから西高はどうあるべきでしょうか。まだ若い西高がこれから少しでも伸びていくために皆さんも西風会総会、また機会を見つけて来校し意見を頂きたいと思います。

五年前、自転車で汗を流しながら登った山口一号線、この坂道を昨春からは西高教員として通うことになった。JR通学や自転車通学の生徒を横目に見ながら自動車で追い越す。山口一号線を登る生徒の姿は私の在学当時とほとんど変わっていない。また西高も大きな変化はない。もつとも生徒数は増加し、トレーニングルーム、弓道場の設置、オムレツ定食や豚汁などの食堂メニューの増加などの変化はあるが、これらのこととは西高の発展を実感させる。

しかし生徒の気質は明らかに違つてきていている。総じて生徒は社交性に富み、物おじせずより明朗になつていて、かしその反面で自己中心的な考えに陥りやすく、物事の取りくみも受け身になりあきらめが早い。これらは現在の高校生全般に言えることかもしれないが、西高創立当初から言われ続けてきた「西高スピリット」は明らかに薄れてきている。これは生徒だけの責任とは言えない。今、教員として西高を見ると学校側が生徒に多くのものを与えすぎているように思える。のんびり屋の多い生徒の学力向上を考えると確かに効果的な手段ではあるが、生徒はますますそれに慣れ、「与えられたものをやっていればよい」といった考



近況報告

秋田正人

(二期)

早いもので西高を卒業して八年がすぎようとしています。

現在私は東京YMCA (Young Men's Christian Association)、東京基督教青年会に奉職し、国際ホテル専門学校の教務という仕事をしています。少し、YMCAの紹介をさせていただきますと、YMCAとは、もともとイギリスで十二人の青年によって始められた小さな運動でした。一八四四年当時のロンドンは産業革命のひずみがいろいろな形でていました。生活環境も悪く、道徳的にも頽廃していました。そういう情況の中で、なんとか彼らを助けることができないだろうか、そう思ったひとりの青年が、仲間に呼びかけて彼らの内面から救ってゆこうとして、聖書を読む会を始めました。それから、この活動は全世界に一気に広まり、キリスト教精神に基づき、社会に対しいろいろなアプローチを行う団体として現在に至っています。例えば、わがホテル学校も、一九四〇年、東京で開かれるはずであったオリンピックの選手や関係者を諸外国から迎えるためのホテルで働くホテルマンを養成することを、東京市から依頼され始まったのです。

ところで昨夏、私は学校の研修旅行の引率で四十日間アメリカ・カナダに行きました。その中でフリー・タイムを利用して、Nashville YMCAに立ち寄りました。ここでは水泳教室のプログラムや、野外活動が行われているのですが、ここでひとつの驚きに出会いました。それは、難民の子供達が普通のアメリカ人と一緒になってプログラムに参加をしていたのです。日本の、YMCAも含めて、得てしてこの種のプログラ

ムは、例えば難民のプログラム、と称して、難民の人達だけを集めてプログラムを開いています。しかしアメリカでは、一諸になつて泳いだり、バスケットボールをしたりしているのです。日本人の狭さ、自己満足、そんなものを痛感した経験でもありました。

私の毎日は、こうして私が思つたり感じたりして創り上げられた私自身と学生とのぶつかりあいです。そして又他方では、そうして卒業してゆくひとりひとりは私自身の鏡であります。そしてそのことが発展し、社会に対し、私自身というよりもYMCAそのものが、新たな社会へのアプローチを行い、新しい現実を創り上げている、そんな気がします。もし興味があれば、近くのYMCAの活動に参加してみませんか?



大学生の今日此頃

青野 健
(十期)

桜の花の咲く候、私は晴れて大学に入学することができました。

「学祭」「夏休み」「前期テスト」「体育祭」と次々に行なわれ、またたく間に数ヶ月が過ぎました。その間に数回のコンバを経験したり、自動車の免許を取得するなど、高校生の時とは、まるっきり違った生活を送っています。また、親元から離れ、自炊したり、アルバイトをしたりして、まさに、「生活」というのを体験しています。学生の中では、自炊を嫌う人が多い様ですが、やってみるとこれが結構おもしろいものです。自分なりに工夫して、新しい料理を開拓しているのだと思いながらすれば、もうあなたは「シェフ」です。アルバイトの方は、ほとんどの学生がしている様です。社会性を身につけるためだとか、生活費を稼ぐためだとか、人によって動機は様々なようです。私も11月までアルバイトをしていましたが、たいへん有意義な体験でした。この半分大人で半分子供の生活は社会へ出るための準備期間なのだろうと思ひます。社会は我々に大人として接してきます。しかし、我々は学生という身分に守られながら社会へ一人立ちするまでの間に社会へ適応していくべきいわけです。しかし、毎日をそういった心構えで過ごすことは大変困難なことです。実際は私も楽な方へ流される方で、自主休講をして代筆をたのんだりすることも少なくありません。そして、ただ「単位」をとるためにだけの大学生活になりました。しかし、それはたいへん虚しいと最近感じるようになりました。せっかくの勉強する機会を自分からつぶすのはもったいないし、なによりも自分の人生観を育てることが大学生のテー

マであり、そのためには、充実した大学生活を送らないといけないので、と思う今日此頃です。



展覧会を終えて

大浦

由香
(十期)

私は、新潟大学教育学部特別教科書道教育養成課程の学生になりました。書道科とよばれているこの科について話をしたいと思います。書道科は、縦と横のつながりが非常に強いです。先輩達は入学した時から何かと面倒をみてくれよくしてくれます。良きお兄さんお姉さんといった感じです。いい人ばかりの集まりでアットホームな雰囲気で包まれています。

六月と七月に大きな展覧会がありました。展覧会というのに作品を出すのは初めてで、新潟大学書道科の特徴である大きな作品を手掛けるのも初めてでした。私は、同じ学年の十四人に比べ、はるかに下手です。自分は下手だから、締切まで力を百パーセント出しきつて、ただ書きまくるしかないと考えました。何かをやるとき全力を尽くしたのは初めてで、自分自身少し成長したように思います。授業が終わると同時に、日本間という広い部屋に行つて書きまくり、外が明るくなつたころに家に戻り、そして授業に出席といっためちゃくちゃな生活を送っていました。この時期はとても苦しかったけれど、やつたという満足感でいっぱいでした。日本間に行けば、自分の作品をよりよいものにし、完成させるという全員共通の目的に向か努力する、いわば同志が作品制作に取り組んでいました。自分にとっての先生は、教授、先輩達の批評・意見です。特に身近にいる先輩達に学んだことはばかりしないほどです。自分の方から積極的に先輩にぶつかっていくと、受けとめ意見を返してくれます。相談にのってくれ、励ましてくれ、それで何度も助けられスラ

ンプものりきました。入学してからの三ヶ月の間たいへん勉強になりました。

でも私は一つのことしかできず作品制作に取り組んでいる間、授業をおろそかにしたことを探る反省しています。私は追いつめられないとき、今なまけているなと思います。甘えていたと思います。何も制限されない大学だから、自分自身を甘やかさないで、何に対してもいっしょに取り組んでいきたいと思います。



狭い窓から

匿名希望

A・S
(十期)

クルでも部もいい、何かやつてほしい。いろいろ人と知り合えるし、何といつてもつまらない大学生活を送らなくてもよい一要因となるかもしない。

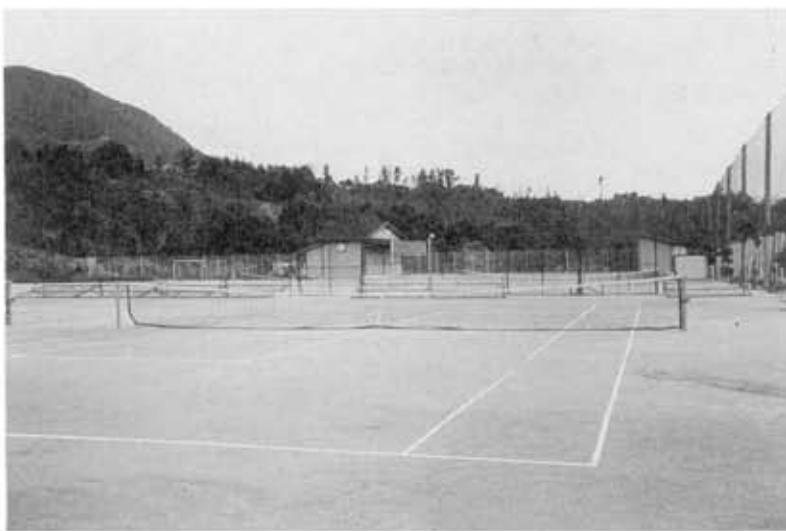
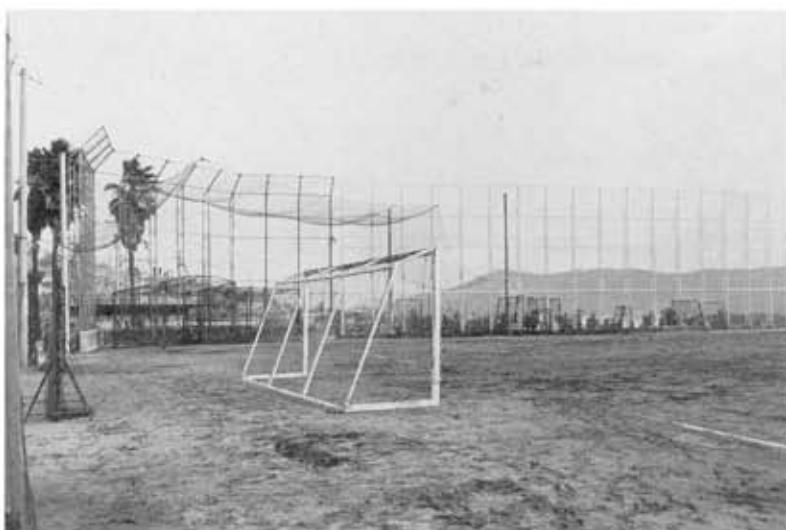
ついでだから付け加えておきたいのが「親も気になる」食生活である。親が心配するほど変な食生活を送っている友達は、僕の知るところないないうで、結構みんなうまくやっているようだ。特に大学の食堂（注…岡大の食堂で食べた飯はまづかった）は栄養のバランスもよく考えられたうえうまいのでおすすめである。僕自身も含め、ビタミンAが不足しがちなのが親も心配してよい点かなあ。とりあえず、「大学生に慣れればこっちのもの」として、終わらせていただきましょう。

僕の通う大学に限らず、大学生活、というものは自由極まりないようと思われる。さすがに三年にもなるといろいろと忙しくなるようだが、少なくとも一年生のうちは自由な身分である。広島大学は現在、着々と移転を進めているが、僕としてはあまり歓迎したくない。なにしろ移転先（＝西条という所）というのがド田舎。良くとれば自然の家であろうか。とにかくまわりには山があるのみである。それだけの自然環境である。もちろん施設は充実している。僕は某クラブに所属する関係で時折そこに練習・試合等で出かけることがあるが、グランドは芝、学部ごとにグランド設置、とまあこれだけでも驚くべき事である。

とりあえず、いまのところ、僕が通う学舎は市内中心部に位置し、とても便が良い。アルバイトもとりやすい。聞くところによると、学内には広島県内出身者は少なく、ほとんどが県外出身者で、その割合は二対八ぐらいとか。それ故か、多くの者がアルバイトに精を出している。ジャンルも様々であるが、高時給・軽労の家庭教師や塾講師が高い人気を集めているようだ。親が相当な期待をこめて家庭教師を求めるのに対し、ぶらぶらして、勉強などひとつもない学生がそれを引きうける事にあら種の矛盾を感じずにはいられないがこれも大学生らしいか。

また、大学内で目を引くのが人間の格好である。どう見てもたいした顔でないのに、その服装やセンスで格好よく、あるいはきれいに見えるのだから不思議なものだ。ついついそんな光景を見ると、服がなくて困りジャージで登校する自分が恥ずかしくなる。大学ではできれば、サー





西方見聞録

～西高からのたより～

生徒会年間活動記録（63年度）

| | | 学級委員会 | 選舉管理委員会 |
|-----|--|-------------------------------------|------------------|
| 4月 | 新入生対面式 生徒会オリエンテーション | | |
| 5月 | 屋島合宿激励 生徒会役員選挙公示 | 部・同好会代表者者会 クラスマッチ委員会 文化祭実行委員会 | |
| 6月 | 総体壮行会 生徒会役員選挙再公示 立会演説会 生徒会役員投票 | | 体育祭 実行委員会 |
| 7月 | 現執行部誕生！役員交代式 野球壮行会 応援練習 高校野球県大会応援（県営球場） クラスマッチ 心のとも運動協力 (バレー・ボール) | | 実施 後夕祭実行委員会 |
| 8月 | 全国高校総体（神戸観察） ボランティアスクール参加 | | |
| 9月 | 西高祭（体育祭・文化祭） 後夕祭実施 ☆生徒会だより1号発行 | 学委 部代会 | 西高祭 監査委員会 |
| 10月 | ☆生徒会だより2号発行 | | |
| 11月 | 友情の絆ハガキ協力 高校総合文化祭開会式参加 ☆生徒会だより3号発行 | | |
| 12月 | 卒業記念品決定 | クラスマッチ委 | |
| 63年 | | | |
| 1月 | ☆生徒会だより4号発行 | 学委 | 年間誌作成委員会 |
| 2月 | 平成元年度予算折衝 | ボランティアの集い参加 | 予算委 |
| 3月 | 年間誌「足」9号発行 クラスマッチ (サッカー・バスケ) | 緑の羽根募金協力 | 実施 会計監査 配布 |

第十一回体育祭を終えて

体育祭実行委員長 志度 公一

僕の体育祭の記憶といえば自分が選手として出場したことよりも、その前の準備段階の事ばかりが思い出されます。体育祭実行委員長という大役を終えての正直な気持は、「ほっとした」という感じです。

今年は〈レク〉として女子は「借り物競争」、一年男子は「障害物競争」、三年男子は「アメ・パン食い競争」を取り入れました。「借り物競争」「障害物競争」は、用具が多く、事前準備が大変でした。どの種目も一応楽しんでいただけたと思っています。

「部活動対抗リレー」については、種目調査アンケートの際、例年通り実施するか議論となりましたが、結局実施することになりました。このリレーの特徴は、各部がなんでもその部に関係したものを身につけるということです。実際には、ユニホームで参加した部が多く、たいへんユニークなリレーとなりました。また部の顧問の先生方も、参加していただきました。

「綱引き」は、各クラスともクラス一丸

となつて参加していましたように思います。

「クラス旗コンテスト」は、一味ちがつた面白さがありました。四角い旗もあれば、人形の形をしたユニークなクラス旗もありました。

個人的な事ですが、僕が一番苦心したのは、開祭式の「体育祭実行委員長あいさつ」です。僕は、今までこのような経験は一度もなかつたので、非常にあがつてしまつて自分でも何を言つていいか分かりませんでした。

実行委員長として一応体育祭を無事に終わらせたものの、特に新しい企画を実行することができず申しわけなく思っています。当日は、みんなの日頃の行いが良かつたのか、すばらしい晴天となりました。みなさんも、通学の坂で鍛えた脚力を発揮していましただけのことでしょう。大きな失敗もなく無事に体育祭を終わらせる事ができたのも、体育祭実行委員を中心ひとえに生徒のみなさんのおかげだと思つております。後輩の皆さんは、今年よりもっとすばらしい体育祭を目指してどうか頑張つて下さい。



第十一回文化祭を終えて

文化祭実行委員長 市原 大賀

第11回西高文化祭は、西暦一九八八年九月十四日十五日と二日間開催された。そして開催された。

第11回西高文化祭

○日程 9月14日・15日

○テーマ 独立宣言

○ポスター more independence



○各クラス・部・同好会・クラブの展示・
装飾・活動内容は以下
1-1 劇「高校生日記―中間テスト編」

| | |
|------------------------|-----------|
| 1-2 空缶壁画——「波」—— | 吹奏楽部 |
| 1-3 シンボルタワー | 放送部 |
| 1-4 「ツグム君とキリ太君」 | 理学部化学班 |
| 1-5 裏門装飾 | 物理班 |
| 1-6 "6組横断 島めぐりクイズ" | 体育館装飾 |
| 1-7 映画「West Side Story | 作品展示 |
| 1-8 ジャングル ベンチ | 写真部 |
| 1-9 レトロでポン | 書道部 |
| 1-10 シンボルタワー 「自由の女神」 | 軽音楽同好会 |
| 1-11 正門装飾 | 演劇同好会 |
| 2-1 メインストリート装飾 | 新体操同好会 |
| 2-2 必殺双六人 | 家庭クラブ |
| 2-3 Egypt | 華道クラブ |
| 2-4 北館装飾 | 茶道クラブ |
| 2-5 Waiting Room | 点訳クラブ |
| 映画「151・34・28・11」 | 展示 |
| あなたの知らない世界 | 体育祭ビデオ |
| TAKOをください | クラス旗展示 |
| 食堂・バー・ラーメン装飾 | 修学旅行ビデオ展示 |
| コーラス部 合唱披露 | |
| 応援団 リーダー公開 | |

第11回文化祭実行にあたり、文化祭総務は多大なる問題を抱えたが、その一つに、「西高三原則」なるものがあった。この三原則とは次の様な西高祭における展示装飾の際の禁止事項である。

●暗くしない

（また、展示装飾は西高の品位を考えること）

●火気の使用禁止
●金銭の取扱い禁止

（考えるここと）

従つて、この三原則によると、当然“おばけ屋敷”も“焼き鳥屋”も“クラス単位での売店”も許可される事はないわけであるが、生徒の方からは、“おばけ屋敷”や、その他三原則に反する展示の計画書は圧倒的に多く、毎年、文化祭総務である者は、職員会議に三原則改正案を提出して、その改正を提案するべく、署名をしたり、先生方と激論になっていた様である。

今年とて、例外ではなかった。

三原則に関するアンケートを取り、各クラスに呼びかけて、危険性の無い様な具体案を提出させ、職員会議に提出したのである。しかし、結果は“不認”という事だった。かくして、西高文化祭は三原則厳守で開催されたのである。

さて、生徒側に立場をおいて考えると、“おばけ屋敷”が出来なかつたクラス、品位がおちるという事で、思う様に出来なかつたクラスの生徒は、面白くなかったかもしれない。他の学校では許可されているのに……と疑問を持った生徒も少なくはないと思ふ。

いと思う。

また、先生方の立場で考えると、西高祭は、文化的・知的であるという考え方を持つており、生徒以上に、安全面での配慮もされていた様に思う。

つまり、生徒と先生方とでは西高祭に関する、その意義が、その根本から異なつてゐるのである。先生方は、西高文化の発表の場として、西高生の多くは（これはアンケートの結果だが）楽しく過ごし、思い出をつくるための祭として、という様に……。

何が、この様な考え方の今まで西高祭を実行させてしまったのか、何が原因なのか？

これは、生徒の方に多くの原因があるのではないか？

心の問題ではないだろうか。私が総務をして、痛感したのはこの事であった。多くの生徒は三原則の実態も、そして、今、何をしているかも知らず、文化祭への関心も、とても低い。仮に三原則を知っていても、先生の立場にたつての理解も試みず、ただあきらめてしまつたのだ。そのくせ、終わつてアンケートを取ると、かなりの生徒が“面白くない”と答えていたのだ。文化祭を面白くしたいのなら、準備期間から

本気で取り組み、三原則に疑問を感じたらその意味を問い合わせ、納得するまで考え、実行すべきである。この事が大切なのではないだろうか。問題は文化祭の三原則にだけではなく、西高生活の全てにおいての、西高の動向に対する、生徒の受けとめ方にあるのではないだろうか。

第11回西高祭のテーマは“独立宣言 more independence”であった。この中には、自立の意が込められている。今、西高生には、本当に、“自立”が必要なのではないか。まわりに流されない強い自我の確立が求められる時ではないか。

これが、私が今回、第11回西高祭の実行委員になって感じた事である。



昭和63年度修学旅行を終えて

修学旅行委員 錦田 五百里

高松西高に入学してそろそろ西高生というものが板についてきたかな、という頃のこと。やつと色々な学校行事にも学校側からの方通行ではなく、少しずつ自分たちの意志や考えで参加できるようになっていました。それだけ西高祭や遠足など一つ一つの行事を楽しみに待つようにもなっていました。その中でも最大のものは二年の秋にあるはずの修学旅行でした。ねんどいっても『東京』めざして行くんだ。という期待で胸がダンスしていたのですが、どこからともなく聞こえてきたのは、

「西高第十一回生の修学旅行は船で」

南の島に行く

とのこと。「うつそー。そんなバーナナナ。ナ」私たちは動搖してしまいました。

先生方は「十一回生」ということだから十をのけたら一回生だ。何か新しいことをせんといかん。」だなんて理由とも何とも言えないことをおっしゃっていましたが、実際のところは、例年と全くちがったことに挑戦しよう。私達が将来の旅行では経験できないような修学旅行にしようと試みたの

です。

最初に私達は突然のこととに不安(不満)でいっぱいでした。本当にうまくいんだろか。何ができるんだろうか。20時間も船に乗つていいどうするんだろう。ジェットコースターの代わりになんで遠くの島へなんか…と思いました。

まず私達旅行委員18名で『P.M.C. (Plan Making Committee)』が結成され、『サンフラワー』を見学に行きました。なかなかのものでした。計画の進行状況を皆に知らせる機関誌『コーターマスター』も次々と出していきました。そうするうちに、船の中でのイベントの企画の中身が煮つまってきた。一番嬉しく感じたのは、

月日が経つにつれ18名で始めていた修学旅行計画スタッフの輪がどんどん広がっていったことです。みんなやるからには少しでもいい旅行にという気持ちに向いてきていた。おり委員やイベントの司会、西高選手権、カメラマンなどとたくさんの人達が協力するようになって最終的にはべ100名以上が動いていました。イベントや服装を決める時も先生方と衝突したり、決まらなかつたりでまさに、

しつくはつく(四苦八苦)。こうして半年以上に及ぶ準備期間を経て5月11日を迎えたのです。

5月11日午前10時、高松港より多くの保護者および先生方に見送られる中、華々しく紙テープをはなながら『サンフラワー』は出航しました。この日からのイベントはどれも異様な盛り上がりを見せ、西高選手権ではつなひきの参加者の一人である校長先生も大ハッスル。『おおーー!』とガツツボーズも出るほどでした。

イベントは盛りだくさん。文化講座として『仁萬オステージ』も行われました。私達の年代にあった話題で、ユーモラスな話に大口を開けて笑ってしまいました。

夜はディスコ大会・軽音ライブ、また別の部屋では映画を放映するなど船の旅ならではのイベントです。みんな船酔いもぶつとばせ!! のりで『サンフラワー』はフィーバーのるつぼと化し、夜はふけていったのです。もっともその前にすでに醉つてしまつてダウンした人も大勢いたし、みんなが船酔いしないようにと注意している先生方も姿が見えなかつたような気が……。

ここで直井先生の俳句を一つ、

“船酔いで吐いてたまるか フルコース”

5月12日午前7時鹿児島市谷山港にて下
船。鹿児島では自分たちの好きなコースを
選んでそれぞれ五つのコースに分かれ、グ
ループごとに市内をまわりました。これも
従来の修学旅行とは大きく異なる点です。

天文館で自由なショッピングもできました。
私たちの旅行の様子は「ズームイン朝」で
全国放送されたせいか、市内の人に声をかけられたりしました。でも私は想像していなかつたことが一つありました。それは桜島の火山灰です。「灰、灰、降れ降れもっ
と降れ」じゃないけれど、目に入るわ、口に入るわ、なんだか穴という穴からはいつ
てくるようでとんでもなかつたです。穴があつたらみさぎたいという心境でした。

第三日目の5月13日には、「ひと月に35
日雨が降る」「ひと2万、サル2万、シカ2
万」といわれる屋久島を訪れました。島の
人には屋久杉太鼓で歓迎を受けました。島
全体が屋久杉のようで日本のジャングルを見た気がします。大きな大きな屋久杉に時代の神祕を感じました。私は村の人たちよりサルにいっぱい会いました。

船上で昼食のバイキングを食べながら次の目的地の種ヶ島へ到着しました。ここで三つのコースに分かれ、種ヶ島の自然を楽しみました。青い海、青い空の文字どおり、すんばらしい景色でした。オーワンダフルッ。Tシャツのまま泳ぎだした人も、ちらほら。

帰路に向かう船でのイベントは、修学旅行の終わりを告げるよう、「ヒットスタジオ」でまたまた盛り上がり、拍手喝采のうちに時間は過ぎていきました。

5月14日、最後のイベントを終えて、無事に帰ることができました。今回の旅行は物見遊山的なものはちがいます。とても充実したものだったと思います。私たち一人一人が活躍し、満足を得た手作りの旅行だったと思います。新しい経験、新しい友情、この旅行で味わったものすべてが宝物だと思います。その想い出をいつまでも大切にしたいと思います。

想い出は潮の香りのTシャツと

いっぱいいたいたい拍手の中に

(2の3) 堀 寿賀



定期演奏会を終えて

吹奏楽部OB

槌谷 昌晃

(二期)

残してくれた。「私たちの定演をみんなの手で育んで行きたい。」(現役生の定演ノートより)と切に思うのである。
最後になりましたが、私たちの第一回定期演奏会を支えて下さった多くの人々に感謝の意を表します。

平成元年三月二十二日午後六時二十九分 高松市民会館のステージで我々吹奏楽部のOB・現役は、第一回定期演奏会の開演時間がくるのを待っていた。楽器を持つ手には、汗がにじみ、胸の鼓動は高まる。タクトがおりたその瞬間、ホルンのファンファーレが高らかに響きわたった。
「定演をやろうじゃないか。」という声がOBの中から出始めたのは、一昨年の夏のことだった。吹奏楽部がコンクールで初の金賞を授賞したのを機に西高吹奏楽部・OBの合同で定期的に演奏会を持ちたいという思いが現役部員・OBの中で大きくなってきた。初めての試みを成功を成功に終わらそうと幾度となくOB会を開き、話し合いを重ねていったのである。

二月、案内状発送、ポスター完成、三月、タイムテーブル、プログラム完成と、試行錯誤の末、何とかこなしていった。看板がないことに気がついたのは、当日の四日前。あせった。しかし、みんなで協力して、何とか作ることができた。万事がこの調子である。定演前日、細かいところがまだできていない。部員、OBの顔に焦りが見える。重苦しい雰囲気での合奏。夕方遅くまで練習した。そして当日。楽器運搬、リハーサルが終わり、後は本番を待つのみ。。。

アンコールが終わり、手に花束をもって受付に向かう部員、OBの顔は満足げであった。涙している者もいた。たくさんのハードルがあり、それを一つ一つ越えて完成したこの定期演奏会は、我々に多くのものを



部・同好会の活躍状況

昭和63年度

昭和62年度

運動部

- 陸上部
(男)800m 2位、3000m 障害3位
(女)学校対抗3位、やり投2位、100m 3位
国体県予選やり投1位・少年A 100m 1位・
少年B 110m J H 1位・少年A 2000m SC 2位
・少年B 走幅3位、新人駅伝大会3位
- 水泳部
(女)100m 背泳1位、200m 背泳1位、100m
背泳2位、200m 背泳2位、100m 平泳2位、
200m 平泳3位
- バドミントン部
四国選手権学校対抗3位、強化大会1位
- ハンドボール部
選抜県予選3位、強化大会2位
- アーチェリー部
県高校選手権大会1・2・3位
四国ブロック大会1・2・3位
- テニス部
県ジュニア大会(16才以下男ダブル)2位

文化部

- 合唱部
N H K 全国学校音楽コンクール香川県大会
優秀校、全日本合唱コンクール香川県大会
金賞、四国合唱コンクール四国大会金賞
- 吹奏楽部
全日本吹奏楽コンクール香川県大会金賞、
県管打楽器アンサンブルコンテスト金賞
- 放送部
香川県高校放送コンテスト朗読部門3位
- 書道部
読売新聞紙上書道香川展(春季)1席・3席
毎日書道学会展普通寺市教育長賞・毎日新
聞奨励賞、全日本教育書道展千葉市長賞、
香川県小中高児童生徒書写書道展西日本放
送社賞

運動部

- 野球部
春季四国大会8位
- 陸上競技部
(男)県総体100m 1位、200m 2位、800m 2
位、四国大会100m 3位、800m 2位、400m
R、やり投、100m H出場、全国総体100m
800m、400m R出場、国体少年A 100m 出
場
(女)四国大会400m R、走り幅跳び出場
- 水泳部
(男)四国大会1500m 自由形、400m R、800m
R出場、国体200m 混合R出場
(女)四国大会200m 背泳3位、新人大会100
m 背泳1位、200m 背泳1位
- ハンドボール部
(男)県総体4位
- テニス部
(女)県総体3位

文化部

- 書道部
県読売書道展第3席、読売新聞紙上書道夏
季香川展一席、秋季香川展三席、第3回全
日本教育書道展覧会天籟賞、特選、第16回
全国高校書道展特選、第24回県小中高児童
生徒書写書道展覧会高松市教育会教育長賞
- 吹奏楽部
全日本吹奏楽コンクール県予選銀賞
- 合唱部
昭和62年度N H K 全国学校音楽コンクール
県大会優秀校、昭和62年度全日本合唱コン
クール四国支部香川大会金賞、第27回四国
合唱コンクール金賞

進路状況

(イ) 進学状況

① 大学種類別合格者数

| 区分 | 元年 | 63年 | 62年 | 61年 | 60年 | 59年 | 58年 | 57年 | 56年 | 55年 |
|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 国立大学 | 243 | 259 | 264 | 185 | 183 | 181 | 180 | 141 | 133 | 64 |
| 公立大学 | 37 | 29 | 22 | 23 | 35 | 29 | 15 | 12 | 25 | 8 |
| 私立大学 | 418 | 408 | 482 | 400 | 397 | 420 | 438 | 460 | 478 | 226 |
| 国公立短大 | 17 | 16 | 13 | 7 | 6 | 9 | 8 | 7 | 5 | 6 |
| 私立短大 | 74 | 89 | 98 | 97 | 68 | 84 | 90 | 71 | 73 | 35 |
| 各種学校等 | 30 | 28 | 47 | 29 | 34 | 34 | 32 | 21 | 14 | 14 |
| 計 | 819 | 829 | 926 | 741 | 723 | 757 | 763 | 712 | 728 | 353 |

② 平成元年3月卒業者学部別進学状況(除各種学校)

| 学部 性別 | 文部省 | 法政大学 | 経済社会学部 | 理学部 | 工学部 | 農業水産学部 | 医学部 | 歯学部 | 薬学部 | 家政学部 | 体育学部 | 芸術学部 | 教育その他 | 計 | | |
|-------|-----|------|--------|-----|-----|--------|-----|-----|-----|------|------|------|-------|----|-----|-----|
| | 男 | 7 | 6 | 30 | 1 | 6 | 33 | 7 | 1 | 2 | 1 | 0 | 3 | 10 | 3 | |
| 女 | 52 | 8 | 17 | 0 | 1 | 2 | 4 | 1 | 0 | 4 | 22 | 3 | 33 | 7 | 157 | |
| 計 | 59 | 14 | 47 | 1 | 7 | 35 | 11 | 2 | 2 | 5 | 22 | 6 | 3 | 43 | 10 | 267 |

③ 大学別合格状況

国立大学

| 大学名 | 合格者数 ()過年度内数 | | | |
|---------|---------------|------|------|--------|
| | 元年 | 63年 | 62年 | 55~60年 |
| 北海道大 | | 3(3) | 2(1) | 3(3) |
| 宝蘭工業大 | | | 1 | 2(1) |
| 帯広畜産大 | | | 1 | |
| 岩手大 | | | 1(1) | |
| 宮城教育大 | | | 1(1) | |
| 東北大 | 1(1) | 1(1) | 1(1) | 4(3) |
| 秋田大 | | | 1 | 2 |
| 茨城大 | 2(2) | 2 | | 5(1) |
| 筑波大 | 2 | 4 | 4(2) | 23(6) |
| 宇都宮大 | 2(1) | 1(1) | 1 | 2(1) |
| 群馬大 | | 2(1) | 1 | 1 |
| 埼玉大 | 2(1) | | 1 | 2(2) |
| 千葉大 | 1 | 1(1) | 4(2) | 2 |
| 電気通信大 | 3(2) | 1(1) | 2(2) | 4(3) |
| 東京医科歯科大 | | 1(1) | | |
| 東京農工大 | 2(2) | | 1 | 1 |
| 東京工業大 | 1(1) | | 1 | |
| 東京商船大 | | | 1 | 1(1) |
| 東京水产大 | | | 1 | 3(1) |
| 東京学芸大 | 1(1) | | 1 | 7(3) |
| 東京外国语大 | | | 1 | 3(3) |
| 横浜国大立大 | | 3(2) | 2(1) | 3(1) |
| 上越教育大 | | 1 | | 1 |
| 新潟大 | 3(1) | | | 3(1) |
| 金沢大 | 1(1) | | | 2(1) |
| 山梨大 | 3(2) | 1(1) | 1(1) | 1(1) |
| 信州大 | 3(1) | 4(1) | 1(1) | 8(3) |
| 岐阜大 | 1(1) | | | |
| 静岡大 | 5(3) | 2(1) | 3(1) | 1(1) |
| 名古屋大 | 1 | 1 | 1 | 3(2) |
| 名古屋工業大 | 1 | 1 | 3(2) | 10(3) |
| 滋賀大 | 1 | | | 2(2) |
| 京都大 | | | 2(2) | 1(1) |
| 京都教育大 | 6(2) | 4 | 6(1) | 3 |
| 京都工業繊維大 | 1 | | 2 | 1 |
| 大阪大 | | 2(2) | 4(2) | 8(5) |
| 大阪外国语大 | | 1 | 2 | 4(1) |
| 大阪教育大 | 2(1) | 3(2) | 6(2) | 2(2) |
| 神戸大 | | 2(2) | 2(1) | 8(6) |
| 神戸商船大 | | 1 | 1 | 6(1) |
| 兵庫教育大 | 1 | 2 | 1 | 3(1) |
| 奈良教育大 | 1 | 2 | 2 | 2(1) |
| 奈良女子大 | | 1 | 1 | 2 |
| 鳥取大 | 2(1) | | 2 | 4(1) |
| | | | | 6(1) |

| | | | | | |
|--------|---------|---------|---------|---------|----------|
| 島根大 | 2(1) | 1 | | | 2(1) |
| 岡山大 | 14(2) | 23(7) | 22(7) | 13(7) | 41(3) |
| 広島大 | 15(6) | 13(2) | 13(8) | 8(3) | 40(4) |
| 山口大 | 4(3) | 2(1) | 1(1) | 1 | 2(1) |
| 徳島大 | 27(3) | 26(9) | 18(6) | 16(6) | 81(29) |
| 鳴門教育大 | 5(1) | 8(2) | 7 | | |
| 香川大 | 79(8) | 83(17) | 84(11) | 97(18) | 427(102) |
| 香川医大 | 1 | 1 | 2(1) | 1(1) | 5(4) |
| 愛媛大 | 13(8) | 14(10) | 19(10) | 5(3) | 39(7) |
| 高知大 | 23(6) | 19(8) | 13 | 3 | 24(8) |
| 高知医大 | | | | | 1(1) |
| 福岡教育大 | | | 2(2) | | |
| 九州大 | 3(2) | 6(5) | 3(1) | 2(1) | 10(7) |
| 九州工業大 | 1 | 7(4) | 2(1) | | 3(1) |
| 佐賀大 | 4(2) | | 3(2) | 2(1) | 1(1) |
| 熊本大 | | | 2(2) | | 6(1) |
| 大分大 | 4(4) | 3(1) | 4 | 1 | 4(1) |
| 宮崎大 | 1 | | | 1 | 1 |
| 長崎大 | | 1(1) | | | 1 |
| 鹿児島大 | 3(1) | 2 | | | 3(1) |
| 鹿児島体育大 | | 2 | | | 1 |
| その他 | 3(1) | 2 | | | 16(6) |
| 計 | 243(89) | 259(91) | 264(74) | 185(52) | 881(265) |

公立大学

| 大学名 | 合格者数 | | | |
|---------|-------|------|------|--------|
| | 元年 | 63年 | 62年 | 55~60年 |
| 高崎経済大 | 1(1) | 2(2) | 1 | 2(2) |
| 東京都立大 | | | | 1 |
| 都立科学技術大 | | | 1(1) | 1(1) |
| 横浜市立大 | | 1 | | 4(2) |
| 金沢美術工芸大 | | 1(1) | | 1(1) |
| 都留文科大 | 4(2) | 4(2) | 2(2) | 9(7) |
| 静岡県立大 | 1(1) | 1(1) | 2(1) | 4(2) |
| 愛知県立大 | | | 1 | |
| 岐阜農科大 | | | | 1(1) |
| 京都市立芸術大 | | 1(1) | | 1 |
| 京都市立大 | 1(1) | | | 4(2) |
| 大阪市立大 | 1(1) | 1(1) | 3(3) | 3 |
| 大阪府立大 | 1(1) | 3(2) | 2 | 2(2) |
| 神戸市立大 | | 1 | 1(1) | 2 |
| 神戸商科大 | 1(1) | 1(1) | 1(1) | 4(4) |
| 広島女子大 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 下関市立大 | 10(6) | 4(3) | 2(1) | 1(1) |
| 山口女子大 | 2 | 4 | | |
| 高知女子大 | 8(2) | 5 | 4 | 1 |
| 北九州大 | 4 | | 1 | 1 |
| その他 | 2(1) | | | 4(2) |
| 計 | 3717 | 2910 | 2290 | 12456 |

私立大学

| 大 学 名 | 合 格 者 数 | | | | |
|---------|---------|-------|-------|-------|--------|
| | 元年 | 63年 | 62年 | 61年 | 55-60年 |
| 酪農学園大 | | | 1(1) | | 3(2) |
| 獨協大 | | | 1(1) | 1 | 2 |
| 文教大 | | | 2(1) | 2 | 4(2) |
| 千葉工業大 | 2(2) | 4(3) | | 6(3) | 16(3) |
| 青山学院大 | 2 | 6(1) | 11(7) | 6(3) | 3018 |
| 大妻女子大 | | | | 2 | 3(1) |
| 学習院大 | 2(1) | | 3(2) | 2(2) | 2(1) |
| 北里大 | 1 | 2(1) | | 1(1) | 1 |
| 共立女子大 | | | 1 | 2 | 24(4) |
| 国際音楽大 | | | | | 4(3) |
| 慶應大 | 2(1) | 3(2) | 2(1) | 3(2) | 2308 |
| 工学院大 | 2(2) | 4(3) | 1 | | 1 |
| 国学院大 | 1 | 1 | 3(1) | 2(1) | 9(5) |
| 国際基督教大 | 1(1) | | | | 3(3) |
| 駒沢大 | 1 | 3(3) | 5(1) | 1 | 10(6) |
| 実践女子大 | 1 | 1(1) | 3 | 1 | 17(1) |
| 芝浦工業大 | 2(1) | 2(2) | 6(4) | 6(5) | 3821 |
| 上智大 | | 1 | 3(3) | 1 | 1100 |
| 昭和女子大 | 3(1) | 5(1) | 8 | 6(1) | 27(5) |
| 成蹊大 | | 1(1) | 1(1) | 1 | 3(1) |
| 成城大 | 1 | | 3(2) | 2(1) | 5(2) |
| 聖心女子大 | 1 | | | 1 | 2 |
| 清泉女子大 | | | | 1 | 1 |
| 専修大 | 6(6) | 6(3) | 5(1) | 6(3) | 3909 |
| 創価大 | 1 | | 1 | 2(1) | 15 |
| 大東文化大 | 3(2) | 1(1) | 3 | 1 | 9(4) |
| 玉川大 | | | 1 | | 6(2) |
| 中央大 | 4(2) | 6(4) | 8(5) | 8(4) | 4421 |
| 津田塾大 | | | 1(1) | 1 | 3(1) |
| 東海大 | 2 | 3(1) | 6(3) | 3(1) | 23(4) |
| 東京経済大 | | 1 | | | 8(6) |
| 東京女子大 | 2 | 1 | 1(1) | | 7(1) |
| 東京電機大 | 5(5) | 4(2) | 6(5) | 8(6) | 2409 |
| 東京農業大 | 4(4) | 2(2) | 2 | 3(3) | 8(3) |
| 東京薬科大 | | 3(2) | 1(1) | | 1(1) |
| 東京理科大 | 3(2) | 9(8) | 1302 | 5(4) | 3208 |
| 東洋大 | 5(4) | 6(4) | 2 | 2(1) | 15(6) |
| 日本大 | 8(7) | 18(4) | 2004 | 1902 | 6021 |
| 日本獣医畜産大 | 1(1) | | 1 | | 2(1) |
| 日本女子大 | 2(1) | | 3 | | 18(3) |
| 日本体育大 | 1 | | 1 | 1 | 5 |
| 法政大 | 7(6) | 3 | 14(7) | 7(6) | 4722 |
| 武藏大 | | | | | 4(1) |
| 武藏工業大 | 2(1) | 1 | 3(2) | 2(1) | 13(9) |
| 明治大 | 5(4) | 4(1) | 14(7) | 10(7) | 6529 |
| 明治学院大 | 3(3) | 3(1) | 1200 | 6(3) | 2803 |
| 明治薬科大 | | 1(1) | 1(1) | | |
| 立教大 | 3(1) | 4 | 8(6) | 4(1) | 26(9) |

| | | | | | |
|-------------|--------|--------|--------|--------|---------|
| 早稲田大 | 3(3) | 3(1) | 6(3) | 7(4) | 4028 |
| 神奈川大 | | 3(2) | 12(1) | 7(5) | 2603 |
| フエリス女子大 | | | | 1 | 4 |
| 愛知大 | | 2(2) | | 1(1) | 12(3) |
| 中京大 | | 3(1) | 1(1) | 1(1) | 12(1) |
| 南山大 | | | | | 2(2) |
| 日本福祉大 | | 3(1) | 2(1) | 4 | 13(6) |
| 名城大 | 4(2) | 4(3) | 1(1) | 3(2) | 11(5) |
| 京都外国语大 | 1 | 4 | 7 | 1 | 21(2) |
| 京都産業大 | 10(5) | 21(7) | 26(8) | 15(9) | 8933 |
| 京都女子大 | 7(1) | 7(3) | 11(4) | 6(2) | 36(5) |
| 京都薬科大 | 2(2) | 1(1) | 2(1) | | 4(1) |
| 同志社大 | 10(8) | 6(3) | 9(5) | 1806 | 9354 |
| 同志社女子大 | 2 | 3 | 1(1) | 2 | 38(3) |
| ノートルダム女子大 | 3 | | 1 | | 11 |
| 立命館大 | 5(4) | 21(1) | 23(9) | 26(8) | 136(74) |
| 龍谷大 | 3(2) | 4(2) | 3(2) | 3 | 59(23) |
| 大阪経済大 | 3(1) | 7(4) | 5 | 4(2) | 4723 |
| 大阪工業大 | 8(4) | 10(7) | 7(5) | 6(2) | 8927 |
| 大阪樟蔭女子大 | | | | 3 | 17(1) |
| 大阪電気通信大 | 14(6) | 4(3) | 3(2) | 3(3) | 18(7) |
| 大阪薬科大 | 1(1) | | | | 5(1) |
| 関西医大 | 20(12) | 23(12) | 28(7) | 20(13) | 9041 |
| 関西外国语大 | 1 | 1 | 4 | 5(3) | 20(3) |
| 近畿大 | 7(3) | 5(2) | 5(1) | 4(1) | 59(9) |
| 摂南大 | 10(9) | 6(4) | 6(2) | 4(3) | 11(5) |
| 関西学院大 | 7(7) | 13(7) | 14(12) | 8(8) | 6748 |
| 甲南大 | 9(4) | 3(1) | 5(3) | 6(2) | 2715 |
| 甲南女子大 | 4 | 3 | 2 | 2 | 18 |
| 神戸学院大 | 8(3) | 8(4) | 5 | 7(2) | 5215 |
| 神戸女学院大 | | 1 | 2 | 1 | 12(3) |
| 神戸女子大 | 3(1) | 2 | 8 | 1 | 6 |
| 神戸女子薬科大 | 1(1) | | 2(1) | | 4 |
| 松蔭女子学院大 | 1 | 1 | 1 | 1 | 8 |
| 武庫川女子大 | 3(1) | | 7 | 4 | 18 |
| 岡山理科大 | 11(7) | 6(1) | 4(3) | 5(1) | 18(4) |
| ノートルダム清心女子大 | 9(1) | 1 | 7(2) | 4(2) | 11(1) |
| 広島工業大 | 8(3) | 3(1) | 1 | | 11(4) |
| 広島修道大 | | | 1(1) | | 4(2) |
| 徳島文理大 | 9 | 5 | 3(1) | 6(1) | 29(3) |
| 四国学院大 | 40(2) | 44(4) | 26(3) | 22(2) | 113(14) |
| 松山商科大 | 3304 | 27(6) | 15(6) | 16(4) | 128(39) |
| 西南学院大 | | 1 | 2 | 2 | 1 |
| 福岡大 | 4(1) | 2(2) | 1(1) | 3 | 19(6) |
| その他 | 6424 | 3805 | 3210 | 3310 | 169(45) |
| 計 | | 418 | 408 | 482 | 400 |
| | | (191) | (173) | (208) | (189) |
| | | | | | (891) |

国・公立短期大学

| 大学名 | 合格者数 | | | | |
|---------|-------|-------|-------|------|--------|
| | 元年 | 63年 | 62年 | 61年 | 55-60年 |
| 信大医療技術短 | | | 1 | 1 | 1 |
| 京大医療技術短 | | 1 | | | |
| 名大医療技術短 | | | | 1 | |
| 岡大医療技術短 | | 1 | | | |
| 徳大工業短 | | | | | 1(1) |
| 徳大医療技術短 | 3(1) | 2(1) | | | |
| 香大商業短 | 3(2) | 6(4) | 6(3) | 2(1) | 16(6) |
| 愛媛大医技短 | | 1 | | | |
| 九大医療技術短 | | | | 2(1) | |
| 都立商科短 | 2 | | | | |
| 岐阜女子短 | | | | 1 | |
| 静岡女子短 | | | | | 2(1) |
| 富山県技短 | | 1 | | | |
| 名古屋市保育短 | | | 1 | | |
| 三重短 | | 1 | | | |
| 滋賀県立短 | 1 | | 1 | | |
| 京都府立女子短 | | 1 | | 3(1) | 2 |
| 姫路短 | | | | | 4 |
| 岡山県立短 | 3(1) | | 2(1) | | 5 |
| 倉敷市立短 | 1 | | 1 | | |
| 新見女子短 | 2 | | | | |
| 尾道短 | 2(2) | 2 | 2(1) | | 4 |
| 福山市立女子短 | | | | | 2 |
| 高知女大保育短 | | | | | 1 |
| 計 | 17(6) | 16(5) | 13(5) | 7(2) | 41(9) |

私立短期大学

| 大学名 | 合格者数 | | | | |
|----------|-------|-------|-------|-------|---------|
| | 元年 | 63年 | 62年 | 61年 | 55-60年 |
| 青山学院女子短 | 1 | | 1(1) | | 7 |
| 大妻女子短 | 1 | 1 | | 1 | 1(1) |
| 学習院女子短 | | | 3(1) | 1 | 4 |
| 共立女子短 | | | 1 | 1 | 7 |
| 実践女子短 | 1 | 1(1) | 3 | 4 | 7(1) |
| 昭和女子短 | 2 | 1 | 1 | 5 | 11 |
| 東京女子短 | | | | | 7(1) |
| 明治大短 | | | | | 2 |
| 立教女学院短 | | | | 1 | |
| 上智短 | | | | 1 | |
| フェリス女学院短 | | | 2(1) | | 1 |
| 京都外国语短 | | | | | 2(1) |
| 京都女子大短 | 13(3) | 18(2) | 29(4) | 22(3) | 73(8) |
| 同志社女子短 | 5 | 5 | 3(1) | 4 | |
| 平安女学院短 | 1 | 6(1) | 3 | 7 | 25(1) |
| 大阪女学院短 | | | | 2 | |
| 関西外国语短 | 2 | 7 | 7 | 7 | 36(1) |
| 甲南女子短 | 2 | 2 | 2 | 2 | 6 |
| 神戸女子短 | 2 | 3 | 2 | 6 | 8 |
| 神戸山手女子短 | | 1 | 2 | 1 | 6 |
| 松蔭女子短 | 2(1) | 3 | 2 | 6 | 9(1) |
| 武庫川女子短 | 7 | 12 | 13(1) | 9 | 25(1) |
| 徳島文理大短 | 1 | 2 | 2 | | 6(1) |
| 香川明善短 | | | | | 13 |
| 四国学院短 | 8 | 17 | 5 | 8 | 60 |
| 高松短 | 10 | 2(1) | 3 | 3 | 19(2) |
| その他の | 16(1) | 8 | 14 | 6 | 84(4) |
| 計 | 74(4) | 89(5) | 98(9) | 97(3) | 421(22) |

各種学校等

| 大学名 | 合格者数 | | | | |
|---------------|-------|-------|-------|-------|---------|
| | 元年 | 63年 | 62年 | 61年 | 55-60年 |
| 防衛医科技大学 | | | | | 1(1) |
| 防衛大学校 | 1(1) | 6(3) | 5(5) | 6(5) | 12(5) |
| 航空自衛隊航海学生 | | 1 | | | |
| 気象大学校 | | | | | 1(1) |
| 海上保安大学校 | | | | | 2(2) |
| 海上保安学校 | | | | 1(1) | |
| 航空保安大学校 | | | | | 2(2) |
| 徳島大学医学部附属看護学校 | | | | 1 | 2 |
| 国立普通寺病院附属看護学校 | 2 | 2 | 3 | | 4 |
| 国立療養所高松病院看護学校 | 1 | | 4 | 1 | 2 |
| 香川県看護専門学校 | 10 | 3 | 8 | 7 | 27(1) |
| 高松赤十字看護専門学校 | 7 | 4 | 7 | 3 | 15 |
| 香川県臨床検査専門学校 | 1 | | 3 | | 1(6)2 |
| 香川県立保育専門学校 | 3 | 2 | 7(1) | 3 | 23 |
| 穴吹情報ビジネス学院 | | 4 | 3 | | |
| その他 | 5(2) | 3(1) | 8(1) | 6(2) | 54(4) |
| 計 | 30(3) | 28(4) | 47(8) | 29(9) | 149(16) |

(口) 公務員試験合格状況

| 区分 | 合格者数 | | | | |
|---------------|------|------|-------|-------|---------|
| | 元年 | 63年 | 62年 | 61年 | 55-60年 |
| 国家公務員採用III種試験 | 2 | 1 | 14(2) | 22(2) | 98(12) |
| 香川県職員採用初級試験 | 1 | 1(1) | | 5(1) | 8 |
| 高松市職員採用試験 | | | 2(1) | 2 | 16 |
| その他 | | | | 2 | 16(2) |
| 計 | 3 | 2(1) | 16(3) | 31(3) | 138(14) |

(八) 就職状況

| 業種別 | 元年 | 63年 | 62年 | 61年 | 55-60年 |
|--------|------|------|-----|-----|--------|
| 建設業 | | | | | 1 |
| 製造業 | -2 | 3 | 6 | | 18 |
| 運輸・通信業 | 1(1) | | | | 7 |
| 卸・小売業 | | | 1 | | 3 |
| 金融・保険業 | 2 | | 4 | 2 | 7 |
| サービス業 | 5 | 2 | 1 | 2 | 11 |
| 公務 | 2 | 1(1) | 5 | 10 | 42(1) |
| 合計 | 9 | 6(2) | 14 | 20 | 89(1) |

(二) 主な就職先(順不同)

| 会社・官庁名 | 元年 | 63年 | 62年 | 61年 | 55-60年 |
|-------------|----|------|-----|-----|--------|
| 香川県職員 | 1 | 1(1) | | 5 | 8 |
| 高松市役所 | | | 1 | 2 | 11 |
| 高松国税局 | | | | | 7(1) |
| 香川医科大学 | | | | | 3 |
| 高松地方検察局 | | | 1 | 1 | |
| ソアテック | 2 | | 1 | 2 | |
| 三菱電機(高松支店) | | | | 2 | 1 |
| 四国電力 | 1 | | | | |
| 日本銀行(高松支店) | | | 1 | 1 | |
| 三菱銀行 | " | 1 | | 1 | |
| 富士銀行 | " | 1 | | 1 | |
| 山之内製薬(高松支店) | | 1 | | | 1 |
| NHK高松支局 | | | 1 | | 1 |
| 高松市農業協同組合 | | | 1 | | 1 |
| その他 | 3 | 3(1) | 7 | 6 | 56 |
| 合計 | 9 | 6(2) | 14 | 20 | 89(1) |

平成元年3月28日付

西高教諭の異動

(転出)

| | | |
|-------|---------|---------|
| 教頭 | 高木直孝 | 飯山高校校長へ |
| 教諭 | 太田千義 | 退職 |
| " | 谷本路得子 | " |
| " | 矢代智子 | 丸亀高校へ |
| " | 永沢正好 | 高松南高校へ |
| " | 倉本久美子 | 退職 |
| 高橋フクエ | 高松養護学校へ | |
| 泉正一郎 | 香川中央高校へ | |
| 小田原敬 | 飯山高校へ | |
| 吉原三佳 | 香川中央高校へ | |

(転入)

| | | |
|------|------|----------|
| 教頭 | 今谷浩造 | 教諭より昇任 |
| 教諭 | 小野正博 | 高松東高校より |
| " | 谷本和義 | 高松商業高校より |
| " | 森孝宏 | 高松北高校より |
| " | 香西紀子 | 坂出高校より |
| " | 大野倫子 | 高松工芸高校より |
| " | 岡宏彰 | 土庄高校より |
| " | 滝久子 | 新規採用 |
| 大西研作 | 白川直美 | |
| 鎌田道代 | 吉良洋平 | |
| " | " | " |

かぜだより ～同窓会からのたより～

第九回西風会総会報告

第九回総会実行委員長

乃村 智仁
(九期)

今年で九回目の西風会総会は、会員皆様のご協力により八月十三日、高松グランドホテルにおいて開催することができました。

今回の総会では、参加者数が少なかったのですが、お忙しい中御出席して下さった先生方や同級生、先輩後輩となつかしい想い出話し等を語り合う機会を持つことができて非常にうれしく思いました。そして、西高をステップに又、ジャンプして去っていった私たちですが、その大きな節目を時代はそれぞれ違いますが、同じ学舎で過した仲間としてホテルのワンフロアで西高の香りを満喫して下さったことだと思います。

しかし、やはり総会というのは堅いイメージを持たれます。皆さん、そうじやないんです。確かに堅い部分もありますが、それはほんの少しだけです。校長先生はじめ旧職員、現職員の皆様のお話しさは（長い方もいらっしゃいますが）その内容は私たちが今、西高について知りたい事や、最近の出来事等の報告と、先生方も会を盛り上げて下さっています。皆さんの協力で総会を良くしようとしているのです。西風会をまぶしく輝かそうとしているのです。もし出席して退屈だと思った方は私たち

スタッフに力を貸して下さい。西風会会員皆で作る会なのです。

こんな事を書いてたらかえって悪いイメージを与えてしまうことになるのではないかという不安がしてきましたのでこのへんで終わりたいのですが最後に一言二言。毎年、スタッフの中でも頭をかかえている問題がありますが、参加者の減少あります。そのため、会員の皆様に毎年楽しみにしていただけるような新しい雰囲気の総会を目指して努力しております。先にも出ました皆さんの力が必要です。一緒にすばらしい西風会を育てましょう。



89高松まつり総おどり参加報告

総踊り実行委員長

河北

賢哉

(九期)

今年も例年どおり、西風会総会を無事に終えて、毎年恒例の高松まつり総踊りに参加しました。集合場所は県立図書館前だったのですが、この時点では、集まる人数が少なく、総踊り実行委員長としては、大丈夫だろかと不安になりました。その後、踊り開始地点まで行くのですが、この時に少しずつ人数が増えはじめ、いくらかほっとしました。そして音楽が聞こえ、総踊りがはじまりました。最初のうちは、みんな照れのせいかおとなしかったのですが、だんだんと飛び入りの人たちが加わってくれて盛り上がりがってきました。よいよ踊りもクライマックスをむかえ、そろそろ終わりに近づくと、みんな大声を出したり、友達どうしでわいわい騒いだりして楽しんでいました。そして音楽が止ると、体の力がいっきに抜けてゆく感じがして、踊りきったという満足感がわいてきました。

最後に僕自身の総評なのですが、なかなか盛り上がって満足したのですが、いまひとつパワーが足りないなという感じがしました。今までは「西風会＝若さ」でしたが、これからは「西風会＝パワー」に変わってゆきたいものです。

来年も、当然高松まつり総踊りには参加しますので、軽い気持で踊りに来て下さい。そして実行委員を困らせるくらいわいわい騒いで下さい。



高松西高第三期生

合同同窓会を終えて

実行委員長

高町 浩伸
(二期)

私たち第三期生は、想い出深い西高を卒業してから早七年を迎えました。入学してからだとちょうど十年目です。時の流れとはかくも早いものか。

この時期にいたって私たち三期生の同窓会をしようではないかという声がどこからともなくあがるようになりました。

さっそく実行委員会が組織され、去年の夏あたりから準備にとりかかりました。実行委員といつてもみな自分の仕事があり忙しいものばかり。ある時は、喫茶を借り切り、ある時は飲み屋で、ある時は誰かの家でと場所をかえ品をかえ、時間をねん出しながら準備を進めて参りました。この時ほど同窓生の人脈のありがたさを痛感したことはありません。

第三期生合同同窓会 要項

| | |
|-----|--|
| 日 時 | 平成二年一月二日(火) 四時から六時 |
| 場 所 | ロイヤルパークホテル高松 |
| 趣 旨 | 三期生入学十周年記念と西風会発足十周年記念 各界各層で活躍されている三期生の交流と懇親 |
| 出席者 | 最初予想していた五十名を大幅に上回り、百名近くの先生方・卒業生に御参集いただきました。 |

会場では立食パーティー。あちこちで想い出話に花が咲きました。諸先生方の一言、高校野球のビデオ、想い出のスライド、校歌の大合唱そして記念撮影。その後も名残惜しく、夜の町に繰り出す者、名刺を交換する者。楽しい一時、あっという間の二時間でした。

このように第三期合同同窓会は大盛況の内に幕を閉じることができます。

西高の職員のみなさんや同窓会会长を含め諸先輩方、それに大蔵誠司君、吉野正晃君を筆頭に私事を犠牲にして世話を役に奔走していただいた同期生のみなさんにこの書面をおかりして深く感謝の意を表したいと思います。

この方がいなかつたらこの記念すべき同窓会は開催できなかつたであろうことを確信し、再会を約しつつ「第三期生合同同窓会」の報告を終えたいと思います。ありがとうございました。



東京支部報告

東京支部長

池龜俊哉
(一期)

昭和五十二年に一期生として高松西高の門をくぐってはや十三年、後輩諸君に第一回目の卒業生として見送られてからもはや十年の歳月が経とうとしています。我々高松西高同窓会「西風会」東京支部も全国に先駆けて設立されて以来、今年で十年目となりました。

我々東京支部が全国各支部の先頭を切って設立されたのは昭和五十五年、我々第一期生が卒業して間もなくの頃であったと記憶します。設立当初は在京一期生による親睦の場として会合を持つといった趣旨で、場所もお茶ノ水の「主婦の友ビル」内の貸会議室でした。以降我々一期生が中心となって逐次加わる卒業生諸君を加え、第二回総会を当時校長の田中清春先生の御臨席を賜り水道橋の「日本学生会館」で、第三回総会を新宿「セントラルパーク」でそれぞれ昭和五十五、五十六、五十七年と連続して開会いたしました。しかしながらそれ以降、中心となっていた一期生の就職活動と就職、それに伴う転勤等のため約五年の長きにわたり支部としては開店休業の状態となってしまいました。これは偏に設立当初より支部長であった私の不徳の致すところとこの場をお借りして深くお詫び致します。

さて、休眠中であった東京支部も昭和六十三年になつてようやく再生復活する事ができました。支部長であった私が再び東京に転勤となつた事と初代西風会会长氏家俊雄君、現西風会会长上村幸司君、同副会長吉

岡大祐君等をはじめとする本部に優るとも劣らぬすばらしいスタッフが東京支部に結集し得たからであります。そこでさっそく昭和六十三年度総会を六月二十六日錦糸町「ロッテ会館」で、また平成元年度総会を七月一日新宿「三井クラブ」においてそれぞれ五十名内外の在京西風会員諸君の参加を得て開会する事ができました。

以上の様な糾余曲折を経て、ようやく東京支部も運営基盤を固め登録会員約千名弱を数える西風会最大規模の支部の名に恥じぬ態勢を築きつあります。設立から十年、この間にも日本は、西高創設の思い出深い昭和から平成の世に変わり、また世界も激動しております。この様な「変化」の時代であればこそ、我々西風会東京支部も会員相互の「変わらぬ友情」のためその一助となるべく今後益々努力していくたいと考えます。西風会本部をはじめ会員各位の益々の御支援御理解を心よりお願ひ申し上げます。



京都支部報告

京都支部長

玉垣 光同朗
(六期)

きでしょ。そのためにも、たとえ微速といえども前進して行く必要があると考えます。これらの目的をはたすため、先ずスタッフを揃え、多くの卒業生のニーズに答えられる西風会支部組織を確立することが大きな課題かと考えております。そして、将来的には支部が置かれていない、大阪、神戸在住の卒業生にも京都支部の行事に参加できるように京都支部の組織、活動を整えたいと考えています。

只今、新年度からの支部スタッフを募集しています。西高の人脈によつて楽しいキャンバスライフを作りたい方、お待ちしております。

西風会の皆様におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。京都支部は学生の街、京都にある支部です。そのため京都には、京大の他、立命館、同志社、京都女子、京都産業、京都外大、龍谷などに、高松西高から多くの卒業生が進学しています。

現在の活動は、年一回の懇親会を中心としています。京都は立命館のような男の多い大学（「余計なお世話や。」カッコ内執筆者、R命館大四回生）よりもむしろ女子大、短期大学が多く、懇親会の出席者の構成は女性がメインになっていることが多いようです（懇親会では京都S大が笑いをとり、京都J大及び短大がそれに答へ、R命館大が遅れを取り戻すべく何か一言付け加えるという図式がしばしば見られる。ちなみにD志社系列はマイペースと言えよう。K都大は残念ながらほんどのない。私の知る限りでは懇親会にはあまり姿を見せないが、京都G語大、京都K育大も卒業生が多くこれから頑張ってほしいところである）。

現在、京都支部のスタッフは平成二年三月卒業の四回生の支部長一人と言う状態にあり、組織的には脆弱な支部です。このため卒業生の皆さんにニーズに、充分答えられる企画を行うことが困難な状況にあります。しかし、わが国有数の学生の街にある若き高松西高の京都支部、卒業生のアフターケアを行うためにも、その存在価値は充分高いものであるべ



岡山支部報告

岡山支部長

伊丹 浩之
(八期)

は各期五名ずつで形成されています)の開催、(2)総会の開催・高松まつり盆踊りへの参加、(3)入会式、(4)会報の発刊です。

昨年は、代表代議員会を二月二十六日に、十四名の出席のもと開きました。主な内容は、予算・決算の審議、事業計画の作成です。

三月八日には、十期生の入会式を行いました。それから、五月三日をはじめとして三回ほど、総会・盆踊りの実行委員を決めて、委員会を補佐しました。

岡山支部が結成されてはや三年、前支部長から引き継いではや二年。岡山在住の同窓生の皆様、元岡山にいらっしゃった先輩の皆様、ゴメンナサイ。遂に昨年はビクリとも動きませんでした。私の懈怠のために岡山支部は今機能しておりません。

七月三十日には、二回目の代表代議員会を十三名出席のもと開きました。主な内容は、総会・盆踊りの準備経過報告・年会費の収入状況などです。

十一月二十七日には、会報作成委員会を作り現在に至っています。

このように年間を通じて香川支部は活動しています。

これからは、年会費をいただいておりますことですし、いろいろな〇B会への援助を積極的にやっていこうと考えておりますので、みなさん西風会への関心を高めてください。そして、各期の眠っている代議員の方々に積極的な協力をこの場を借りてお願いします。

香川支部報告

香川支部長

小柳 雅俊
(一期)

青木 清安
(四期)

高松市役所支部 「新西会」近況報告

香川支部というのは、支部というより西風会本部みたいなもので、本部の事務を代行できるという規約にもとづいて活動しています。大きな柱として四つあります。(1)年一回の代表代議員会(代表代議員

高松市役所新西会は、平成元年度13名もの新入会員を迎えた。これに

より、一期生から八期生まで、総勢45名を数えるまでになり、市役所の中でも新興勢力ながら大所帯になってきたというところである。

さて、本年度の活動状況であるが、まず春には、新入会員の歓迎会、これは今回、市役所新西会始まって以来の大人数の入会となつたため、現役会員と新入会員の参加者が、ほぼ同数になつてしまつた。したがつて苦しい財政の中での歓迎会となり、現役の皆様には多大なる負担をかけてしまつたが、新入会員全員出席というところで、まずは成功であつた。その後については、夏のイベント、忘年会etc.とバラエティーに富んだ予定のはずであったが、幹事である私の怠慢により、多くの行事が流れていき、結局今のところ、先の歓迎会と、つい先日、私の不参加のうちに行われた新年会の2つのみであり、幹事の任期も残りわずか数か月となつた現在、反省することしきりである。この点については会員の皆様におわびするとともに、来期の幹事さんによろしくお願ひしたいと

年会費納入のお願い

西風会も早や10年目に入り、ようやく基盤が整備されつつあります。そして、10年後には、21世紀を迎えるとしています。このような重要な節目の時期に、より同窓会員の結束を強め、母校愛を育てるため、この同窓会報「西風」の発刊にこぎつけました。今後、この生れたばかりの「西風」を育てるため、その他、名簿の整備、支部への支援等を行うためには、財政面の強化が必要です。ぜひとも、年会費を納入下さるようお願い致します。

昭和63年度決算及び平成元年度予算報告

さる、平成元年 8月13日、高松グランドホテルにて開催された総会にて左記のとおり、昭和63年度決算及び平成元年度予算が満場一致で可決承認されました。

平成元年度 西風会予算案

| 収 入 | | 支 出 | |
|-----------|-----------|--------|-----------|
| 年度繰越金 | 6,179,012 | 会 費 | 200,000 |
| 会費(11期生分) | 1,080,000 | 費 | 150,000 |
| (年会費) | 1,500,000 | 費 | 800,000 |
| 総会会費 | 160,000 | 信 刷 | 400,000 |
| | | 慶弔 | 60,000 |
| | | 助 儲 | 350,000 |
| | | 備 | 40,000 |
| | | 次年度繰越金 | 6,919,012 |
| 合 計 | 8,919,012 | 合 計 | 8,919,012 |

昭和63年度 西風会決算報告書

| 収 入 | | 支 出 | |
|----------|-----------|----------|-----------|
| 繰 越 費 | 6,925,159 | 総 会 費 | 684,596 |
| (10期生会費) | 588,000 | タイムカプセル費 | 364,565 |
| 総会参加費 | 588,000 | 会報準備費 | 402,670 |
| タイムカプセル費 | 273,600 | 名簿作成費 | 363,405 |
| 名簿売上代 | 279,900 | 支部援助費 | 186,390 |
| 雜 収 入 | 1,500 | 役員会費 | 112,540 |
| (年会費) | 341,705 | 入会・対面式費 | 0 |
| (利 息) | 188,000 | 記念品料 | 51,000 |
| | 153,705 | 慶弔費用 | 20,000 |
| 合 計 | 8,409,864 | 予備費 | 45,686 |
| | | 繰 越 | 6,179,012 |
| | | 合 計 | 8,409,864 |